

GSI キャラバン 2020 年度研究報告書

「小国」の経験から普遍を問いなおす

代表：伊達聖伸（総合文化研究科）

2020 年度、「小国」の経験から普遍を問いなおす」班では、(1) 12 月に香港中文大学とのキャラバンを 12 月に開催した。(2) また、それに先立ち、メンバー内での発表を中心とする 2 回の研究会を開催した（6 月と 9 月）。(3) それから、年度開始時と終了時に当たる 4 月と 3 月にミーティングを行なった。いずれもオンラインでの開催となった。(4) その他、問題意識を広く共有してもらう目的から、代表者が試論的な論文を執筆した（伊達聖伸「小国」論試論——近現代日本の「宗教」と「世俗」の観点から普遍を求めて」『Odysseus』25 号（2020 年）、2021 年）。

2020 年 4 月 27 日、第 1 回のミーティングを行ない、香港中文大学をパートナー校とするキャラバンを中心的な軸とする年度計画を立てた。メンバー内での問題意識の共有と視点のすり合わせのために 2 回の研究会を行なうことを決めた。

2020 年 6 月 3 日、第 1 回の研究会をセミクローズド／セミオープンで開催した（オンライン）。報告者と報告題目は次の通り。伊達聖伸「小国」論試論——近現代日本の「宗教」と「世俗」の観点から」。張政遠「Small nation としてのホンコン」。

2020 年 9 月 15 日、第 2 回の研究会を同じくセミクローズド／セミオープンで開催した（オンライン）。報告者と報告題目は次の通り。小川浩之「イギリス帝国の脱植民地化と現代世界の形成——連邦国家と小国への分岐」。土屋和代「ブラック・ライヴズ・マター運動が問うもの——現代アメリカにおける刑罰国家／脱・福祉国家化」。鶴見太郎「ポグロムの記憶の移植——ロシア系シオニストにとっての「西」と「東」」。

2020年12月20日、香港中文大学とのキャラバンを東京大学藝文書院（EAA）との共催で公開シンポジウム “Questioning the Idea of a “Small Nation” in East Asian Contexts”（「東アジアの文脈において「小国」概念を問い直す」）として開催した。報告者と報告題目は次の通り。Date Kiyonobu, A Small Nation Feigning to be Something Greater: the Dynamic Relation between the Secular and the Religious in Japan (Commentator: Regina Fu Hoi Yee, Senshu University) ; Cheung Ching-yuen, Philosophy in Hong Kong after 1949: Tang Chun-i, Lao Sze-kwang and Cheung Chan-fai (Commentator: Cheung Yuk Man, Ritsumeikan University) ; Stephen Nagy (International Christian University), Japan's Hong Kong Conundrum, the future of Hong Kong, and the "China Dream" (Commentator: Saulius Geniusas, Chinese University of Hong Kong) なお、こ

のシンポジウムの詳細な報告はEAAのホームページにおいてなされているので合わせて参照されたい (<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/blog/questioningsmallnation/>)。

2021年3月12日、第2回のミーティングを行ない、おもに来年度の計画を立てた。2021年度は新メンバーを加え(崎濱紗奈、田中浩喜)、11月にケベックのラヴァル大学を相手校とするキャラバンを実施する予定である。また、カリフォルニア大学LA校歴史学部の平野克弥准教授、イエール大学歴史学部のO・A・ウェスタッド教授を招聘しての国際シンポジウムを開催する予定である。